

情報かわら版

12

今月のトピックス

- ▷ 津南町オーガニック特別給食の試食会
- ▷ 職員勉強会で「わたしの『+みどり』宣言！」を行いました
- ▷ 新しい養豚経営を目指して～(有)坂上ファーム(村上市)～
- ▷ 長岡大学で講義を行いました
- ▷ 2025年農林業センサス結果の概要(概数値・新潟県)
- ▷ 令和7年産水稻の作付面積及び収穫量(新潟県)
- ▷ 寒い時期こそ栄養たっぷりの牛乳を！
～牛乳でスマイルプロジェクト～



今月の表紙：にんじん畑（津南町）

今月の表紙：ルバクチエ

電子版はこちら ➔



津南町産の有機農産物を使用した オーガニック特別給食の試食会が行われました！

津南町は、11月1日に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、未来を担う子どもたちに食の尊さを伝え、地域や農業とつながる学びの提供により、町と自然を大切にする共生の精神をつないでいくこと等を宣言しました。

この宣言を受け、12月8日(月)から12月12日(金)まで「オーガニック給食週間」として、町内産有機農産物を使用したオーガニック特別給食を小中学校で提供しました。

また、12月9日(火)には津南中学校において、3年生の生徒と桑原津南町長、有機農業者の代表の方等がオーガニック特別給食を食べながら懇談する試食会が行われました。



オーガニック特別メニュー

※（）は有機農業で生産された農産物

- ・有機もち麦ごはん（コシヒカリ、もち麦）
- ・ポークカレー（にんじん、じゃがいも、大豆）
- ・海藻サラダ
- ・雪下にんじんジュース（にんじん）
- ・有機大福（もち米、小豆、大豆）



（桑原町長のあいさつ）

試食会を楽しみにしていました。農産物を育ってくれた生産者や調理員の方々に感謝して食べましょう！

（有機農業者のお話）

大豆、じゃがいも、にんじんを栽培しました。栽培で苦労したのは野生動物の食害で、一番大変だったのはツキノワグマの食害でした！

（給食を食べた生徒の感想）

- ・普段からおいしい給食を食べられることに感謝し、給食を作っていただいた人にお礼を言いたい！
- ・食材を大切に育てた農家さんはすごい。
- ・3年生は給食を食べる機会が残り少ないので、味わって食べた。とてもおいしかった！



職員勉強会で「わたしの『+みどり』宣言！」を行いました！

令和7年12月2日、農林水産省が進めている、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」及び北陸農政局が行っている環境にやさしい農業・食料消費を進めるためのプロジェクト「+みどり計画」について、職員の理解を深め、関係各方面へ取組の環を広げていくため、勉強会を行いました。

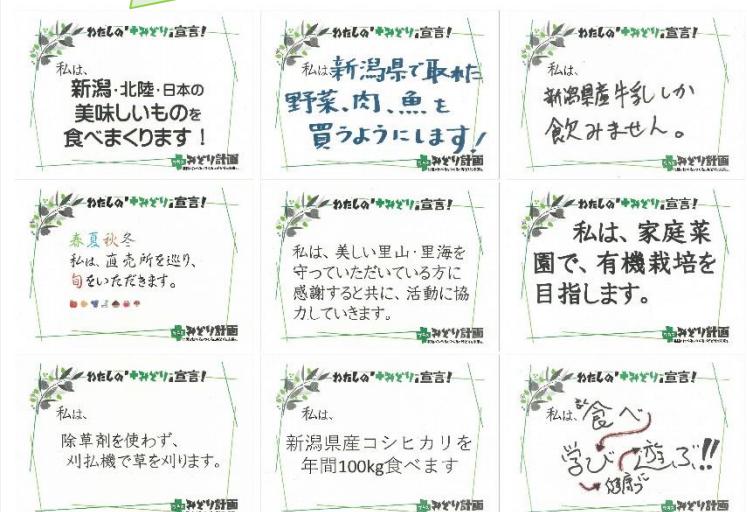
勉強会の最後に、「+みどり計画」の一環である、「わたしの『+みどり』宣言！」を記入し、日々の生活や仕事で、環境にやさしい行動を行うことを宣言しました。



リモート参加した北陸農政局職員は「大きいおにぎりをお腹いっぱい食べる！」と宣言！



田口地方参事官は、「新潟・北陸・日本の美味しいものを食べまくります！」と宣言！



▲ 職員の「わたしの『+みどり』宣言！」

「わたしの『+みどり』宣言！」は、新潟県拠点HPにも掲載しています。

ご覧いただき、皆様も「わたしの『+みどり』宣言！」を始めてみませんか？

▼ 新潟県拠点HP フォト・ギャラリー
<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/photo.html>



北陸農政局では、地域の環境と食を守る活動をされている地域や人々を応援し、その取組の環を広げて行くためのプロジェクトとして「+みどり計画」に取り組んでいます。

ウェブページで様々なコンテンツを発信していますので、ぜひご覧ください！

▼ 北陸農政局HP

https://www.maff.go.jp/hokuriku/kikaku/midori_syokuryou/plus_midori.html



北陸農政局公式Instagramでは、みどり戦略を分かりやすく知つもらうための情報発信を行っています！ぜひ一度覗いてみてください。



新しい養豚経営を目指して

村上市で養豚経営に取り組む(有)坂上ファームの代表取締役社長 坂上慎治さんにお話しを伺いました。



坂上慎治さん

(有)坂上ファームでは、飼料に地元で生産された飼料用米(米粉)を使っています。脂身が甘く美味しいお肉になります。この飼料用米は年間約240tをJA北新潟から購入しています。

出荷後の販売ルートは、(株)富士フィード＆ミートを通し、新潟県内小売店や長野県のピーオアケイ(株)で販売しています。ピーオアケイ(株)には、お肉の食味を気に入ってくれていただき直営店で「プレミアム太郎ポーク」として販売されています。

畜舎新築中

現在、国のR6年度補正予算「畜産・酪農収益強化整備等特別対策事業(畜産クラスター事業)」を活用して豚舎を建設中です。

新築後の飼養規模は、母豚350頭、種豚2頭、肥育豚約4,800頭 年間出荷約9,100頭を目指しています。

これに合わせて管理方法をウィークリー方式(※1)からスリーセブン方式(※2)とします。現在使用している豚舎を分娩専用とし新豚舎ではウイーントゥフィニッシュ(※3)を導入します。これにより作業の効率化や豚の移動時のストレス軽減につながります。

この管理の方法は、新潟県内初ということで、既に県内外から視察の申し込みが来ています。

ここに至るまでには、同様な方式の事業者での研修や関係機関の皆さんとともに地域住民への度重なる説明会などをすることで、理解を図ってきました。

現在の豚舎

建築中の豚舎



今後の課題や思い

新潟県で初めての方式なので、関係機関の皆さんのご指導を受けながら従業員にうまく技術を伝えることができるかが課題です。

来年度の飼料用米の作付けが地元でも大幅に減るようなので、これまで取り組んできた地域との耕畜連携が維持できなくなってしまうのが残念です。この事業を成功させ新潟県内でも普及をさせたいです。

最後に、いっしょに養豚をしてくれる仲間を絶賛募集中です！

さかうえ
(有)坂上ファーム

- ☆ 社員:男性4名、女性4名
- ☆ 飼養規模:母豚210頭、種豚8頭
肥育豚約2,600頭
- ☆ 年間出荷頭数:約5,700頭
- ☆ 子豚の成長に合わせて群を移し、
ストレスが生じないように飼育
しています。
- ☆ 村上市畜産
クラスター
協議会のメン
バー



- (※1)毎週、種付けから離乳
作業を行う方式
- (※2)※1の3週間分の作
業を1ユニットにする
方式
- (※3)離乳から出荷まで
移動せずに飼育する
方式

畜舎が完成の際には、お邪魔する予定です。

長岡大学で講義を行いました

長岡大学では昨年度から関東財務局新潟財務事務所による寄附講座を開催しています。この講座は国の機関を中心とした複数の公的機関が長岡大学にて講義を行い、学生に各機関の役割や行政の仕組み及び主要施策を理解してもらうことを目的とした内容となっています。

新潟県拠点では昨年度に続き、令和7年11月19日（水）に講義を行いました。

講義は二部構成で実施し、第一部では田口地方参事官が「我が国の食料安全保障をめぐる情勢及び改正基本法に基づく食料・農業・農村基本計画」と題して、食料の安定供給や輸出の促進、食品アクセスの確保、農業の持続的発展と農村振興の必要性等を踏まえ、食料・農業・農村基本計画の意義や今後の方針等について講義を行いました。第二部では北陸農政局企画調整室の担当者2名が「食料安全保障と私たちの生活～不測の事態に備えた食料備蓄～」というテーマで講義を行い、後半では食料備蓄に関するクイズに回答してもらうことで、講義内容への理解を深めてもらいました。



▲ 我が国の食料安全保障をめぐる情勢について説明する田口地方参事官



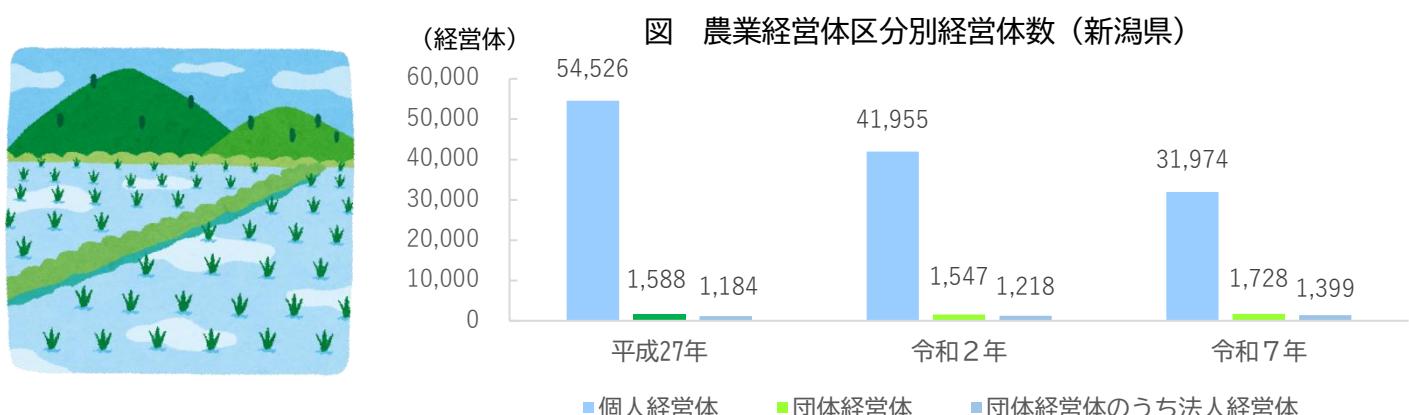
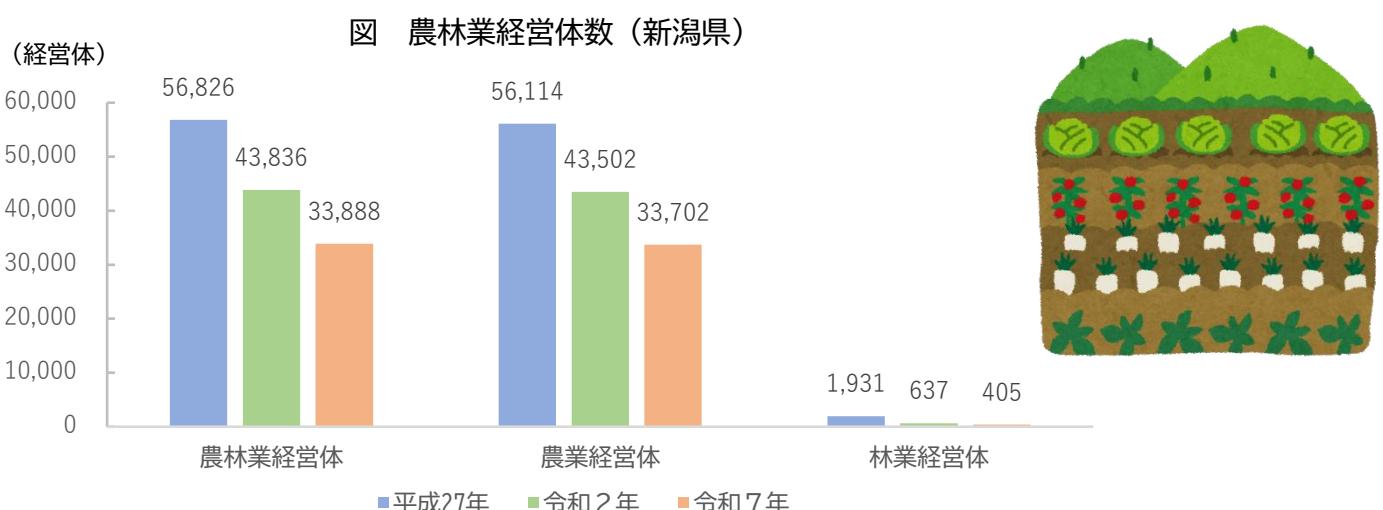
▲ 食料備蓄のクイズに回答する学生

受講生の感想を一部紹介します

- ・北陸農業は、気候変動リスクに対応した多角化と、若い担い手を確保できる持続可能な仕組みづくりが最大の焦点となっているということがわかった。
- ・食料問題を「自分には関係ない」ととらえるのではなく、自らも当事者として向き合うべき課題だと気づかせてくれる貴重な機会となった。
- ・最初は自給率が低いのに輸出もするのかと不思議に思った。しかし、農産物のブランド価値を高め、農業の収益を上げることで国内農業を活性化させるという目的を知り、納得できた。
- ・地震や大雨などの自然災害が多い日本では、食料備蓄がとても重要だと改めて感じた。
- ・災害時に避難をした経験がないので1日に必要な水の量や、どのような食料を持って行くか、どこに置いておくかなどのことを知ることができた。いつ災害になってしまって対処できるように準備しておきたいと思った。

2025年農林業センサス結果の概要（概数値・新潟県）

農林水産省は、2025年農林業センサス結果（概数値）を11月28日に公表しました。全国都道府県別のうち、新潟県の結果を見ると、農業経営体数は3万3,702経営体で令和2年（2020年）調査と比べ9,800経営体（△22.5%）の減少となりました。経営体区別に令和2年調査と比較すると、個人経営体数では23.8%減少しましたが、法人経営体数では14.9%増加となりました。また、経営耕地のある経営体の1経営体あたり経営耕地面積は4.1haで、令和2年調査と比べ0.9ヘクタール（28.1%）の増加となりました。なお、経営耕地面積10ヘクタール以上の農業経営体の面積シェアは50.0%となり、令和2年調査と比べ12.4ポイントの上昇となりました。



詳細は以下のURL又は二次元バーコードからご確認ください。
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html#



令和7年産水稻の作付面積及び収穫量(新潟県)

○農林水産省は、令和7年産水稻の作付面積及び収穫量を公表しました。

全国都道府県別結果のうち新潟県を見ると、水稻作付面積(子実用)は11万7,700haで前年産に比べ1,500haの増加となりました。このうち、主食用作付面積は10万8,600haで前年産に比べ7,200haの増加となりました。これは、備蓄米、飼料用米等からの転換により増加したことによります。

また、10a当たり収量は525kgで前年産に比べ10kg増加となりました。

収量の構成要素で見ると、穂数は5月中旬から6月中旬までの日照時間が前年を下回ったことから「やや少ない」、1穂当たりもみ数は7月の気温及び日照時間が前年を上回ったことから「やや多い」、全もみ数は「前年並み」、千もみ当たり収量(登熟)は8月中旬以降の気温、日照が確保され「前年並み」となりました。

なお、収穫量(主食用(生産者ふるい上米))は57万200tで前年産に比べ4万8,000tの増加となりました。

○作況単収指数:令和7年産から従来の作況指数に代わり、10a当たり収量について、当年値と前年産までの5か年のうち、最高値年、最低値年を除いた3か年平均値との対比を「作況単収指数」として公表しました。

令和7年産水稻の作況単収指数は、新潟県102、作柄表示地帯別で見ると下越101、中越104、上越100、佐渡96となりました。

○玄米の品位状況:令和7年産から坪刈りしたサンプルの品位状況を参考情報として公表しました。

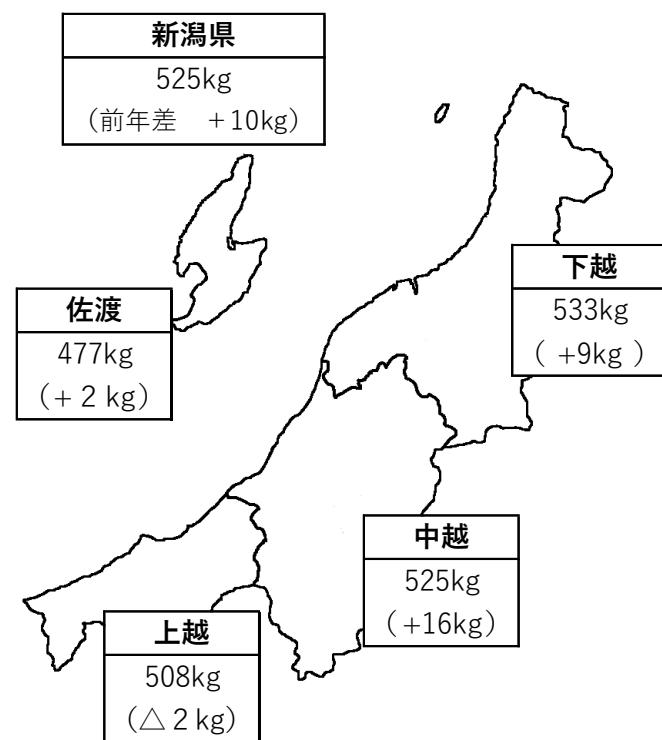
表：令和7年産水稻の玄米品位の状況

区分	白未熟粒	死米	胴割粒	着色粒	単位：%
新潟県	2.8	0.2	1.4	0.1	

注：1 水稻作況標本筆の刈取試料（生産者が使用しているふるい目幅で選別した玄米）を、筆ごとに穀粒判別器を用いて品位分析を行い、その結果を集計したもの。

2 白未熟粒は乳白粒と背腹白粒の合計。

図：新潟県の作柄表示地帯別10a当たり収量



注：生産者が使用しているふるい目幅ベース
(新潟県：1.85mm)



詳細は以下のURL又は二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/251200.html>



寒い時期こそ栄養たっぷりの牛乳を！



← 牛乳、乳製品の消費拡大に取り組んでいます。

農林水産省HP

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/gyunyu_smile.html



編集後記

「津南の雪下にんじん」は地理的表示(GI)に登録されている特産品ですが、今回、津南中学校の給食で出された「雪下にんじんジュース」も津南町の雪下にんじんを99%使用(1%はレモン果汁)したジュースだそうです。

それにしても、中学生の食べっぷりには感動しました！



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

